



季節を知ったら  
暮らしが楽しくなった

（第一三二号）

小満 しやうまん

五月二一日

八大龍王神社



## 八大龍王社

伊勢市と南伊勢町の境にある標高四二〇メートルあまりの八禰宜山から、さらに登山道を西に進むと、八大龍王社にたどり着きます。

スタジイやアラカシに覆われた境内には本殿と拝殿、さらに水をたたえる池もあり、山中にひっそりとまつられながら人々の信仰を集めていたことがうかがえました。

八大竜王は仏法を護る八体の竜神といわれ、水の神、雨乞いの神ともされています。さらには修験道の祖といわれる役行者との縁があるともいわれています。伊勢で八大竜王というと、すぐに朝熊山の頂にあるお社を思いませんが、神宮の山の南側にもまつられていたのです。おそらく、ふもとの南伊勢町切原の人々にとっては水源である山に竜神をまつったのでしょう。

また境内には、飯盛寺跡の石標が立っていました。古くから、飯盛さまの御札を受ければ、麻疹疱瘡にかかる心配はないといわれてきた古刹です。

『三重県の地名』（平凡社発行）によると、もともとは今の志摩市磯部町築地との境、デンベにあったとされ、嘉吉年間（一四四一〜四三）兵火より焼失、文明一六年（一四八四）に飯盛山に再建されたとあります。本尊は聖観音で、疱瘡治癒の祈願寺として南伊勢第一の霊場と賑わったようです。しかし、明治には衰え、暴風雨で本堂が倒壊すると明治一四年（一八八一）に切原地区に小さなお堂が建てられ、今に至っています。

また切原地区には、「右飯盛道、左参宮道」と刻まれた道しるべも残っています。かつては五ヶ所湾から船で伊勢参りに来た人々は切原を通り、飯盛寺に立ち寄り、伊勢へ向かったのでしょう。この寺は神宮への交通の要所でもあったのでした。

文 千種清美

